

特許流通 ニュースレター

特許流通
ニュースレター

No. 3

2004.5.15
発行

特許流通成功事例 (P2-5)

成約事例レポート 2-3

武岡 明夫 特許流通アドバイザーに聞く
「植物栽培マット」

リサイクル率100%で衣料廃棄物を再生利用

久保田 英世 特許流通アドバイザーに聞く
「地中孔の掘削装置」

基礎くいに「節」を付けて支持力を向上



主な特許流通事例 4-5

2004年3月31日までの報道記事より

- 1.匂い調合装置など
- 2.お神酒(濁り酒)の酒母の製造方法
- 3.鋼材に木の耐火服
- 4.情報提供システム
- 5.無停電電源装置
- 6.保冷効果の高い紙箱
- 7.液だれの少ない繊維化樹脂による均一で高強度の透水性舗装
- 8.アントシアニンを含む醗酵酒の製造方法

企業インタビュー 6-7



全研 山田 要輔社長に聞く

廃水処理に関わる一連の技術開発に
必要な技術は導入し、求める人には提供



インフォメーション 8

工業所有権総合情報館、

「特許流通支援チャート」の平成15年度作成21テーマを公表

第2回「三重の21世紀リーディング産業展」、

2004年5月21～22日に開催

第3回「産学官連携推進会議」、

2004年6月19～20日に京都で開催



武岡 明夫 特許流通アドバイザーに聞く 成約事例レポート

技術シーズ名 「植物栽培マット」(特許第3393205号)

リサイクル率100%で衣料廃棄物を再生利用

アースコンシャスが開発した植物栽培マットは、現在「エコグリーンマット」という商品名で販売されている。ジャージーやニット製品の端切れ材を縫製製造業者から購入、また冬物衣料などの廃棄物を古着回収業者から購入し、ポリエステル繊維を主に使用して“土”の代替部分となるフェルトを再生する。さらにポリエチレンなどのプラスチック廃棄物をプラスチックリサイクル加工業者から購入し、再生利用して骨材を作る。原料はすべて廃棄物。リサイクル率100%だ。両者を合わせて2層構造の植物栽培マットが出来上がる。水はけや通気性が良く、植物の生育に適した保水力もある。軽く、しかも土が風で飛ばないので、都市のビル屋上の緑化などに土壌の代替品として需要が増えている。1㎡当たりの重さは約3.5kgで、台車に積んでエレベーターで屋上に簡単に運ぶことができる。



図1 「エコグリーンマット」。フェルト状の土壌代替部と、全体を支える骨材で構成する

交渉の途上で特許流通の仕組みを紹介し支援

衣料などの繊維廃棄物の再生利用する技術をアースコンシャスの青山恭久社長が考案したのは、同社を設立する7、8年前。環境保全とリサイクルに寄与できる仕事として本技術を開発していた。2000年11月に同技術がNHKの全国放送でも紹介され、この放送がきっかけで複数の企業と折衝を始めた。いくつか名乗りを上げた企業の中で山崎産業が最も意欲的で、しかも製造ノウハウを持っていることが分かり、協力関係を築くことにした。そして2001年にアースコンシャスを起業した。両社が折衝をスタートし、進め方の大枠を決定したところで、徳島県知的所有権センターの武岡明夫特許流通アドバイザーが「特許流通事業」の存在を紹介し、支援できる旨を伝えたという。



図2 「エコグリーンマット」の施工例。マットの上に芝を張り、レイアウトする

ベンチャーが大手企業と対等に交渉

特許権の実施許諾をすることで、アースコンシャスは開発に専念し、山崎産業は製造・販売のプロとして協力関係を築くことをアドバイスした。さらに、本技術は植物を扱うので、その道のプロに設計・施工をしてもらう必要があると考え、東邦レオ(大阪市中央区)、野口興産(東京都練馬区)という実務担当企業とも協力関係を持つことにした。開発はアースコンシャス、製造・販売は山崎産業、そして設計・施工を東邦レオと野口興産という役割分担を構築することで、川上から川下まで一貫した体制を作り上げたのがポイントだという。さらに消費者から古着などを買い取り、これらを用いてマット化することで、住民参加型の緑化というビジネスモデルにまで発展させたいという。

アースコンシャスの従業員数は6人。まさにベンチャー企業であり、資金的には厳しい。しかしベンチャー企業が持っている技術開発力を生かし、大手企業と連携して新技術を事業化させた好例とも言える。大手との交渉にはさまざまな駆け引きもあり、特許流通アドバイザーが間に入ることで対等な立場で交渉ができたのも大きいという。

(インタビュー:日経BPクリエイティブ編集委員 大西順雄)

〔 特許の所有者 〕

アースコンシャス 株式会社
〒770-0866 徳島市末広 1-4-10



〔 実施権のライセンス先 〕

山崎産業 株式会社
〒556-0001 大阪市浪速区下寺 3-18-7

武岡 明夫 特許流通アドバイザーの連絡先

TEL = 088-669-0117 FAX = 088-669-4755 電子メール = takeoka-ad@adp.jiii.or.jp



久保田 英世 特許流通アドバイザーに聞く 成約事例レポート

技術シーズ名 「地中孔の掘削装置」(特許第3340980号)

基礎くいに“節”を付けて支持力を向上

軟弱地盤に建物を建てるには、基礎くいを地面に何本も打ち込んで地盤を改良する必要がある。通常はくいを打つために土をドリルで掘って穴を開け、そこにあらかじめ用意したくいを差し込んで固める。当然、掘った穴からは排出土が出る。出た土とセメント材を混合して固めてくいにする方法もあるが、安定した性能を持たせにくかった。キューキ工業(宮崎市)が開発した「MRX工法(節形状掘削工法)」は、特殊な節状の穴を開け、排出土とセメント材をその場で混合し、その中に心材となるコンクリートパイルを沈め、固めて基礎くいにしてしまう。

地面からまず真っすぐに穴を掘り下げる。このとき土質改良液やセメントを加えてかくはんしながら掘っていく。すると土とセメントが混ざったドロドロのソイルという状態になる。掘削装置は特殊な構造になっており、所定の深さまで掘り下げたら、掘削装置の途中から一定間隔で取り付けられたピットの腕を広げ、今度は部分的に孔径を拡大させる。これにより、節状のユニークな形状のくいが出来上がる。あとは既存のコンクリートパイルを沈めて固めれば、その場でくいが地盤と一体化して完成する。節状であるため、地盤との接触面が広く、従来のくいよりも支持力が高いのも特徴だ。また通常のくい打ちに伴う騒音も少なく、街中での施工に向いている。



図1 「MRX工法」で出来上がったくい。形状が節状になる

補助金審査会で特許流通アドバイザーが技術を知ってアプローチ

宮崎県知的所有権センターの久保田英世特許流通アドバイザーは、宮崎県の補助金審査会でキューキ工業の技術を知り、同社の特許技術に関する相談を受けていた。MRX工法を普及させるには、日本建築センターの性能評価および国土交通省の認定を受ける必要があるが、同社単独では実績もなく困難だった。

そこで、キューキ工業の内村和博社長は、同業大手のトーヨーアサノおよび大同コンクリート工業とコンタクトを取り、共同で認定を受けることについて交渉を持った。この時、久保田特許流通アドバイザーが両社を同行訪問し、ライセンス契約、業務提携の契約の支援を行い、契約にこぎ着けた。その後3社共同での認定のための試験などを経て、建築基準法改定後、最初の国土交通省の認定を取得した。これを弾みに、MRX工法協会を立ち上げ、3社の監理によるMRX工法が全国に展開された。



図2 「MRX工法」の“節”を作る特殊な中間ビット

特許流通がきっかけで工法が全国で使われるように

キューキ工業は地盤調査、基礎工事の専門業者で、創業は1998年。現在の社員数は32人。事業エリアも基本的には九州内である。前述の3社はMRX工法協会として、賛助会員を募り、ライセンス施工者の全国展開を図っている。2002年6月の認定取得後、MRX工法の施工件数も急激に伸び、115件を超えるまでに至っており、今後さらに伸びが予想されている。

(インタビュー:日経BPクリエイティブ編集委員 大西順雄)

〔 特許の所有者 〕

キューキ工業 株式会社
〒880-0843 宮崎市下原町212-1



〔 実施権のライセンス先 〕

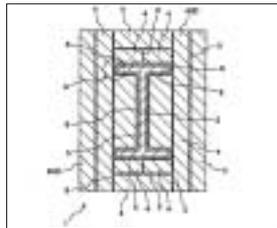
株式会社 トーヨーアサノ
〒410-0312 静岡県沼津市原315-2
大同コンクリート工業 株式会社
〒110-0015 東京都台東区上野2-14-1

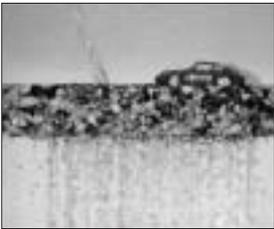
久保田 英世 特許流通アドバイザーの連絡先

TEL = 0985-74-2953 FAX = 0985-74-2953 電子メール = kubota-ad@adp.jiii.or.jp

2004年3月31日までの報道記事より

主な特許流通事例

ライセンス案件	ライセンサー(特許提供者)	ライセンシー(特許導入者)	報道記事
匂い調査装置など 	(財)理工学振興会 (東京都目黒区)	(株)ミラプロ (山梨県・須玉町)	日経産業新聞 2003年11月7日
担当した 鷹巣 征行 特許流通アドバイザーのコメント			
		東京工業大学大学院理工学研究科の森泉豊栄教授が研究開発した香り分析技術をミラプロ(山梨県・須玉町)が応用して、匂い調査装置を製品化した。蒸気拡散した気体を電磁弁で精密制御できる。ミラプロが、半導体製造装置や真空装置で培った蒸気や流体の精密制御技術を応用した。同社が森泉教授を訪問したのがきっかけで話が進められ、1カ月程度の短期間に契約できた。東工大TLO(技術移転機関)である財団法人理工学振興会の鷹巣征行特許流通アドバイザーは、「匂いセンサーの技術はノウハウが重要なので、整理して提案したい。市場の将来性が高い分野であることが分かったので、さらなる流通のために企業ニーズの収集を心掛けた」としている。	
アドバイザー連絡先		電話: 045-921-4391 電子メール: takasu-ad@adp.jiii.or.jp	
お神酒(濁り酒)の酒母の製造方法 	奈良県工業技術センター (奈良市)	葛城酒造(株) (奈良県御所市)	奈良日日新聞 2003年12月13日
担当した 時田 宜明 特許流通アドバイザーのコメント			
		品質の安定化が難しいお神酒の濁り酒を安定的に製造できる技術。奈良県工業技術センターの松澤一幸総括研究員の技術を葛城酒造(奈良県御所市)が製品化した。特許流通アドバイザーによる流通事例としては同県で初めてになる。同技術により、添加した乳酸菌により速やかに乳酸が作られ、有害菌の増殖が抑制されることにより発酵が安定し、高品質の酒母ができる。県有特許のため、実施料率や契約条件を詰めるために2カ月ほど時間がかかったという。仲介した奈良県工業技術センターの時田宜明特許流通アドバイザーは、「奈良県の場合、地場産業に密着した特許も多く、他府県の同業企業へ展開できる可能性があるものを発掘し、全国で紹介していきたい」と意気込みを語る。	
アドバイザー連絡先		電話: 0742-33-0863 電子メール: tokida-ad@adp.jiii.or.jp	
鋼材に木の耐火服 	三重県科学技術振興センター 林業研究部 (三重県・白山町)	日本集成材工業協同組合 (東京都)	朝日新聞 2004年1月15日
担当した 森末 一成 特許流通アドバイザーのコメント			
		H型などの鋼材の周囲を、木質部材で隙間なく埋めるように被覆した複合建築部材を、三重県科学技術振興センター林業研究部が開発。火災時の鋼材の温度上昇が少なく、鋼材の強度低下による建築物倒壊の危険性が少ない。2003年10月初め、実施許諾契約について支援要請を受けた三重県知的所有権センターの森末一成特許流通アドバイザーが交渉を開始、3カ月で成約した。ライセンス料で歩み寄れたのが成因。「県有特許は企業に使ってもらってこそ評価される」普及促進には『骨付き集成材』とか『スベアリブ工法』などネーミングが大切」という双方の言葉が印象的だったという。日本集成材工業協同組合から、組合員企業180社に再実施許諾される件数の増加が楽しみだ。	
アドバイザー連絡先		電話: 059-234-4150 電子メール: morisue-ad@adp.jiii.or.jp	
情報提供システム 	(有)金沢大学ティ・エル・オー (金沢市)	(株)チアコム (金沢市)	北国新聞 2004年1月27日
担当した 五十嵐 泰蔵 特許流通アドバイザーのコメント			
		カメラ付き携帯電話機を使って店先に貼った暗号を読み取る一種のスタンプラリーの企画を、金沢大学経済学部飯島康裕助教授が特許出願、研究室からスピンオフしてベンチャー起業したチアコム(金沢市)が実施権のライセンスを受けて事業化した。IT(情報技術)を利用して商店街の活性化などを図るのが目標。2003年10月に特許出願依頼を受けた金沢大学ティ・エル・オーの五十嵐泰蔵特許流通アドバイザーが、出願後速やかに実施権許諾交渉を行い、1カ月で成約した。現在、チアコムには商標登録をするようにアドバイスしている。さらに東京の会社に紹介している。国立大学法人化がスタートし、文科系学部の知的財産を語る上で良い例になっているという。	
アドバイザー連絡先		電話: 076-264-6115 電子メール: tigarashi-ad@adp.jiii.or.jp	

5	ライセンス案件	ライセンサー(特許提供者)	ライセンシー(特許導入者)	報道記事
	無停電電源装置 	(財)理工学振興会 (東京都目黒区)	(株)シノザワ (横浜市)	日本工業新聞 2004年1月28日
	担当した 鷹巣 征行 特許流通アドバイザーのコメント  フライホイールを内蔵し、停電時にはその回転エネルギーを電気に変換して無停電電源を実現する技術を、東京工業大学原子炉工学研究所の嶋田隆一教授が開発した。バッテリーやコンデンサーを使う一般の無停電電源装置と違って有害な素材を使わないのがポイントで、価格も1/3と安い。この技術の実施権ライセンスをシノザワ(横浜市)が受けた。製品化を目指し試作1号機を完成させた。横浜産業振興公社の紹介で東工大TLQ(技術移転機関)である財団法人理工学振興会の鷹巣征行特許流通アドバイザーが2003年2月から交渉し、4カ月で成約した。研究資金の調達方法が難関だったという。「産業振興公社などの機関を活用し、地域企業の情報収集に心掛けたい」という。			
アドバイザー連絡先		電話: 045-921-4391 電子メール: takasu-ad@adp.jiii.or.jp		
6	ライセンス案件	ライセンサー(特許提供者)	ライセンシー(特許導入者)	報道記事
	保冷効果が高い紙箱 	三愛バック(株) (札幌市)	(株)ユニバック (静岡市)	静岡新聞 2004年2月20日
	担当した 山田 修寧 特許流通アドバイザーのコメント  包装資材メーカーの三愛バック(札幌市)が保有する紙製の保冷ケースの特許を、ユニバック(静岡市)が実施権ライセンスを受けて製造販売を開始した。段ボール材の折り込み方を工夫して空気層を作り、断熱効果を高めたのがポイント。リサイクル性にも優れている。2002年10月に北海道知的所有権センターの宮本剛汎特許流通アドバイザーから紹介を受け、静岡県知的所有権センターの山田修寧特許流通アドバイザーがユニバックに紹介した。同社社長が地元の水産加工業者に対して熱心に拡販し、約1年かけて販路が確保でき、ライセンス交渉も成立した。「特許の移転には製品の販路が欠かせないことを痛感、今後の特許流通でこの面でのアドバイスも心掛ける」という。			
アドバイザー連絡先		電話: 054-278-6111 電子メール: nyamada-ad@adp.jiii.or.jp		
7	ライセンス案件	ライセンサー(特許提供者)	ライセンシー(特許導入者)	報道記事
	液だれの少ない繊維化樹脂による均一で高強度の透水性舗装 	ファイバーレジン(株) (徳島市)	水海道産業(株) (茨城県水海道市)ほか12社	徳島新聞 2004年3月12日
	担当した 武岡 明夫 特許流通アドバイザーのコメント  液体合成樹脂を繊維化することで、硬化時に液だれが少なく、強く透水性の高い舗装材をファイバーレジン(徳島市)が開発した。土木建築舗装工事の水海道産業(茨城県水海道市)ほか12社が既に実施権ライセンスを受けて製品化している。表面がはがれにくく、アスファルトやセメントなどの下地処理が要らない。2002年3月ごろ、ライセンサーの親会社と話をしていた徳島県知的所有権センターの武岡明夫特許流通アドバイザーが同技術の紹介を受け、全国展開をしたいとの申し出に対して相談に乗った。各社との交渉はスムーズで、数カ月で成約している。「いいものを全国に広めたいとのライセンサーの意向をくんで、他の都道府県の特許流通アドバイザーへの紹介も続けている」という。			
アドバイザー連絡先		電話: 088-669-0117 電子メール: takeoka-ad@adp.jiii.or.jp		
8	ライセンス案件	ライセンサー(特許提供者)	ライセンシー(特許導入者)	報道記事
	アントシアニンを含む醗酵酒の製造方法 	(財)くまもとテクノ産業財団 (熊本県・益城町)	千代の園酒造(株) (熊本県山鹿市)	熊本日日新聞 2004年3月13日
	担当した 桂 真郎 特許流通アドバイザーのコメント  ブドウや紫イモなどに多く含まれるアントシアニンという色素成分が、ガンや高血圧などの原因の一つとされる活性酸素を無害化する機能を生かして、健康的な発酵酒を作る技術を、崇城大学工学部の大庭理一郎教授と三枝敬明助手が開発した。共同研究をしていた千代の園酒造(熊本県山鹿市)に対し、特許出願後に独占的实施権許諾が行われた。TLQ(特許移転機関)である財団法人くまもとテクノ産業財団は、資金面で財団の助成金制度を利用するなどの協力もした。販路は大学と企業が開拓、ラベルやネーミングは大学の芸術学部が考えた。くまもとテクノ産業財団の桂真郎特許流通アドバイザーは、「産学官がうまく役割分担して効率よくシーズをニーズに結びつけた成果である」という。			
アドバイザー連絡先		電話: 096-214-5311 電子メール: katsura-ad@adp.jiii.or.jp		

これらの事例を含めて、特許流通の成約件数は
4,080件に達しました!! (平成9年度～平成16年3月31日の累計)

廃水処理に関わる一連の技術開発に 必要な技術は導入し、求める人には提供



全研（千葉県船橋市）の山田要輔社長は、大手メーカーからスピンアウトして同社を1986年に起業した。ただ、特定の技術で独立したわけではなく、機器や半導体など洗浄に関わる仕事を請け負って開発してきた。その中で、廃水をなるべく出さない一連の洗浄システムのために、必要な技術を外部から導入し、また必要な人には提供してきた柔軟さを持つ。逆転の発想で次々に機器開発を行う同社のエネルギー源を聞いた。

企業概要

株式会社全研

本社所在地：〒274-0805 千葉県船橋市二和東6-32-5

事業内容：産業廃水の循環型処理装置、洗浄装置の製造販売、表面処理薬品の製造販売
技術導入実績：5件 技術移転実績：5件

全研の山田社長の頭の中には、寝ても覚めても「廃物、廃水を出さない洗浄システム」のことがあるようだ。千葉県船橋市の住宅街の真ん中にある本社にも、茨城県岩井市にある工場にも、また自宅にも、思いついたら夜中でも実験に取り掛かれる道具をそろえているという。「思いついたらすぐに自分でやってみる」ことが山田社長のやり方。元日以外は年中無休。「大晦日も除夜の鐘を聞きながら実験している」のがここ数年続いているそうだ。

山田社長のもとに、半導体メーカーや半導体製造関連機器メーカーから開発依頼が来る。ますます精密になってくる半導体製造の中で、廃水処理はメーカーの抱える大きな問題になっている。現状では精密なフィルターを使ってる過し、安全な水に戻すことは当然行われているが、実は問題はそのフィルターにある。

「精密にろ過すればするほど、フィルターは目詰まりを起こしやすくなり、取り換えも頻繁に行わなければならない。精密フィルターは高いし、取り換えも面倒。しかもフィルターに付着したさまざまな物質はリサイクルされることもなく廃棄処分されている」のが実態だという。

「何とかならないか」「こんなことで困っているのだが」と山田社長を訪ね

る大手機器メーカーに対して山田社長は、「手は一つではない。できなければ次の手を考える。あきらめないで考えることが大事」と言う。「自分は素人。プロのような思い込みが逆にならないから、どうすればいいかが見えてくる」のだそうだ。

「リサイクル」が基本思想

全研は、洗浄機と廃水処理に関わる一連の機器を開発している。独立は1986年。フロンを使った半導体洗浄機を作った。しかしオゾン層破壊の問題でフロンが使えなくなり、引き続いてトリクロルエタンを使ったが、これも2020年で使用が禁止される。「洗浄に石油系がダメなら水しかない」という考えで、水を使った洗浄機を開発した。

しかし、洗浄では廃水処理が必要になる。「廃水は流してはダメ。フィルターも捨てるは何もならない。リサイクルしないとダメだ」という発想で、短時間にフィルターを洗ってフィルター機能を回復できる機器を開発してきた。また、廃水から水以外の廃物を取り出すための蒸発機、乾燥機なども手がけ、一連のシステムを構築している。

この一連のシステムを作るに当たって、山田社長は多くの技術を導入し、逆に多くの技術を移転している。公表されているものだけでも、導入5件、

実施権ライセンスが5件。その内容は、根元で「廃水処理」につながっている。蒸発装置では三菱化学から特許の譲渡



図1 最新試作機では、ろ材の分離用の2段目ろ過室が加わった

を受けている。逆にろ過装置ではシンガポールの企業や水処理大手に実施権をライセンスしているほか、三洋電機とは共同出資会社を設立している。

逆転の発想の浮上ろ材と渦流

現在試作開発を行っているのは、伝統的な砂を使うろ過装置の逆転の発想から生まれた浮上ろ材を使った廃水ろ過装置である(図1)。通常の砂ろ過装置はろ材が下に堆積し、その隙間を廃水が通るときにろ過される。しかし、目詰まりを起こした時にろ材を洗浄するには装置を分解して洗わなければならない。この洗浄にも相当な水が使われる。

全研で開発したのは、水よりも軽いろ材を使って装置の上面にろ過層を作り、下から上に向かってろ過するという装置だ。ろ材が目詰まりしてきたら、内部で水流を起こしてろ材をかき混ぜると、目詰まりを起こしていた廃物は下に沈み、ろ材は廃物を振り落としてまた上に浮くという仕組みになっている。目詰まりの寿命を延ばせる点がポイントで、栗田工業と特許を共同出願している。

浮上ろ材も一からの開発になる。改良に改良を加え、現在は比重の大きい粗粒径の特殊ろ材と比重の小さい小粒径の特殊ろ材の2段ろ過方式を実現している(図2)。1段ろ過では、ろ過はろ材の表層だけでしか起こらないが、2段ろ過だとろ材の間でもろ過が行われる体積ろ過になって効果が高くなるという。

「二つのろ材は、世の中になかったので全くの新開発。大きさのバラつきがあると隙間がなくなってうまくろ過できないので、不定形でないことを目指してメーカーに開発してもらった。失敗したら釜ごと買い取る、とまで言って作ってもらった」という。その試作は数十種類に及ぶ。

廃水の導き方もポイントの一つ。装置の高さ方向の中央付近に取水口を斜めに取り付けている。これで、取り入れる時の水流を使って装置内部で円を描くような水の流れを作っている。

この水の流れによって、ろ材の下部

はドーム状になり、ろ過面積が増える。しかも、この流れを使って装置全体をかくはんすることで、ろ材から廃物を振り落としてろ材洗浄が行える。「鳴門の渦の原理と同じ」と山田社長は笑う。当初はプロペラを使ってろ材をかくはんしてろ材洗浄をすることを考えたが、実際に実験してみると回転に大きな力が必要だったり、継ぎ目のシール処理などが必要だったりして失敗したという。

最新の試作装置では、フィルターから振り落とした廃物を取り出すために2段目の容器が取り付けられている。ろ材の一部が廃物に混入することを防ぎ、廃物と同時に排出する水の量を従来の1/10に減らして、後工程の蒸発乾燥をより簡単にするのにも役立つ。

「愛・地球博」でも活躍予定

廃水処理技術は裏方の技術だけに、なかなか表舞台に出る機会がないが、愛知県で開かれる2005年日本国際博覧会「愛・地球博」では、アーティストの杉原有紀氏が監修するウォータードーム・プロジェクトで水の浄化に使われることになっている。会場に水の臭さがなくなることが、すでに他のプロジェクトで証明されている。「長期間、ろ材の交換をしなくて済むので、使う側は便利だが、商売にはなかなかならない。何とか事業化したい」と山田社長は言う。

全研の特許の導入と移転には、阿草一男特許流通アドバイザーが千葉県知的所有権センターに派遣された当初からほとんど常に関わっているという。出会いは1998年に開かれた「ベンチャ

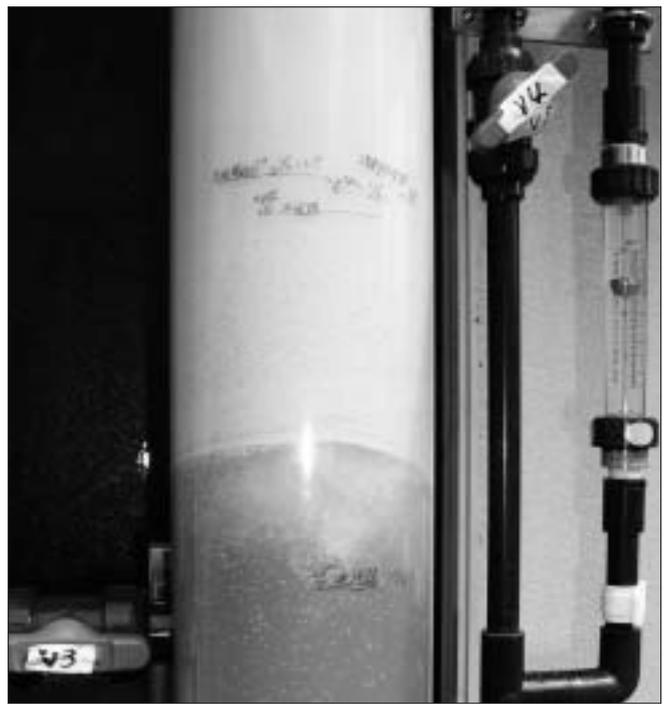


図2 ろ過室内で水が回転することで、ろ過面積も拡大している。図で文字の書かれているところより上が小粒径のろ材、そこから下が粗粒径のろ材になっている

ープラザちば」。その後、自治体の支援施策の紹介やシーズ検索、技術移転、その他一般的な技術相談にも応じているという。「いい技術があり、いい仕事をしているので、放っておけない」と阿草特許流通アドバイザーは言う。企業とアドバイザーの間に良好なパートナー関係が築かれている。

全研は特許庁が毎年4月18日の「発明の日」に行っている産業財産権制度活用優良企業表彰で、2004年度(平成16年度)特許庁長官表彰を受けた。洗浄・廃水処理という一つの中心テーマに対して、技術の導入と移転を非常に柔軟にこなしている同社は、確かに「制度活用」にふさわしいといえるだろう。

(インタビュー:日経BPクリエイティブ編集委員 大西順雄)

特許流通アドバイザー連絡先



千葉県知的所有権センター

阿草 一男

電話 = 043-207-8201

電子メール = agusa-ad@adp.jiii.or.jp

工業所有権総合情報館、「特許流通支援チャート」の平成15年度作成21テーマを公表

独立行政法人工業所有権総合情報館は、「特許流通支援チャート」の平成15年度(2003年度)作成21テーマを公表した。これで総計67テーマになった。特許流通支援チャートは、技術テーマごとに過去10年間の特許情報を分析し、技術の成熟度、技術開発課題に対する解決手段の動向などをパテントマップを使って分かりやすく解説したものの。なお、平成15年度に追加したテーマの内容を収めた特許流通支援チャートのCD-ROM版を2004年6月に頒布する予定。

機械	化学	一般
9 ネットワーク生産管理システム	14 軽金属基複合材料	10 バリアフリー住宅
10 コージェネレーションシステム	15 酵母利用食品	11 マイナスイオン発生機
11 介護用入浴装置	16 バイオマスエネルギー	12 質量分析
12 易解体固定技術	17 食品廃棄物の処理と利用	13 融雪技術
電気	18 金属表面の硬質皮膜形成技術 (PVD・CVD・溶射法)	
17 ネットワーク家電	19 キッチン・キトサン利用技術	
18 3次元物体識別技術	20 マグネシウム合金	
19 照明用LED技術	21 土壌改良技術	
20 遠隔医療・遠隔介護システム		
21 音声圧縮技術		

特許流通支援チャートは、工業所有権総合情報館のWEBページ
<http://www.ryutu.ncipi.go.jp/chart/index.html>
 からアクセスできます。

第2回「三重の21世紀リーディング産業展」、2004年5月21～22日に開催

三重の21世紀リーディング産業展実行委員会は、2004年5月21日(金)～22日(土)第2回「三重の21世紀リーディング産業展」を開催する。三重県内に営業所などを置く企業や、大学、団体、自治体などが、新技術や新製品を展示、紹介する。出展予定は約180社・団体。独立行政法人工業所有権総合情報館も出展する。基調講演「シャープの液晶事業展開」や特別講演「防災とビジネス」のほか、以下の多彩なセミナーが予定されている。

- ・ディスプレイ産業セミナー
- ・水素エネルギー社会に向けた取り組み
- ・マイクロソフトIT実践塾入門編<全国ITデリバリーセミナー>
- ・平成16年度第1回みえ新産業創造・交流会
- ・メディカルセミナー
- ・新エネルギーセミナー
- ・三重県経営品質マネジメント・イノベーションセミナー
- ・燃料電池セミナー
- ・三重県環境経営サロン
- ・HRI経営セミナー
- ・中小企業ISO導入セミナー
- ・エコマークセミナー

日時： 2004年5月21日(金)～22日(土)10:00～17:00
 場所： 四日市ドーム 三重県四日市市羽津甲5169 霞ヶ浦緑地公園内
 入場料： 無料
 主催： 三重の21世紀リーディング産業展実行委員会

詳細は、「三重の21世紀リーディング産業展」のWEBページ
<http://www.pref.mie.jp/sangyos/moyooshi/>
 に紹介されています。

第3回「産学官連携推進会議」、2004年6月19～20日に京都で開催

第3回「産学官連携推進会議」が2004年6月19日(土)～20日(日)開催される。これまでの「産学官連携サミット」「地域産学官連携サミット」「産学官連携推進会議」の集大成とも言える総合会議となる。独立行政法人工業所有権総合情報館も共催団体として名を連ねており、出展も予定している。

初日の基調講演を、自由民主党科学技術創造立国推進調査会の尾身幸次会長が行う。引き続いて特別講演として、「国立大学法人化と産学官連携」を京都大学の尾池和夫総長が、「産学連携戦略の構築 カリフォルニア大学の実例」をカリフォルニア大学リサーチ担当のローレンス・コールマン副総長が、「産学官連携による地域発展戦略」を岩手県の増田寛也知事が講演する。全体会議、分科会に加えて、展示ブースで大学や独立行政法人などの研究成果が展示される。

日時： 2004年6月19日(土)～20日(日)19日は10:00～21:00、20日は9:00～13:00
 場所： 国立京都国際会館(京都市左京区宝ヶ池)
 入場料： 無料
 主催： 内閣府、総務省、文部科学省、経済産業省、日本経済団体連合会、日本学会会議

詳細は、「第3回産学官連携推進会議」のWEBページ
<http://www.congre.co.jp/sangakukan/>
 に紹介されています。

特許流通 **ニュースレター**

「特許流通ニュースレター」は、独立行政法人工業所有権総合情報館からの委託事業によって編集・制作されています。「特許流通ニュースレター」のバックナンバーは、独立行政法人工業所有権総合情報館のWEBページURL：<http://www.ryutu.ncipi.go.jp/index.html>でPDF形式でご覧になれます。

特許流通ニュースレター No.3

2004年5月15日

- [発行] 社団法人発明協会 研究所 特許流通促進事業センター
- [企画・編集・制作] 日経BPクリエイティブ
- [印刷] 大日本印刷

お問い合わせ先

社団法人発明協会 研究所 特許流通促進事業センター 特許流通促進グループ
 〒105-0001 東京都港区虎ノ門4-1-40 江戸見坂森ビル4階
 TEL=03-5402-8431 FAX=03-5402-8437

著作権は、工業所有権総合情報館と日経BPクリエイティブ、もしくは寄稿者に帰属します。記載記事を許可なく転載することを禁じます。WEBサイトへ許可なくアップするなどの再利用も禁じます。
 Copyright ©2004 National Center for Industrial Property Information and NikkeiBP Creative, Inc.
 All Rights Reserved